

「シドニー便り 2. 0」(第16回)

～ シドニー着任から一年 ～

9月19日

9月23日、シドニーに着任してから一年を迎えます。あっという間の一年でした。

この「シドニー便り2. 0」の第一回では、到着してからの「第一印象」を5つ記しました。

一年が経った今、その印象は今でも変わっていないと感じます。

①街がきれいで、②溶け込みやすく、③親切でオープンで活気がある、④食材に豊か、⑤親日的だ。どれをとっても「そうだよな」という気持ちになります。唯一、「ゴミが落ちていない」と記載したのが、観察が甘かったくらいでしょうか。

この一年を振り返ると、当地シドニーで様々な行事がコロナ禍前の頃と同様に、いやそれ以上に活発に行われ、日本とオーストラリアの間の人の往来も元に戻ったことを実感します。

コロナ禍の中で蓄積されていたエネルギーが発散されている側面もあるでしょうが、それ以上に、日本とオーストラリアの関係の深化と多様化、そしてシドニーにおける日本人の目覚ましい活躍が、コロナ禍以前の状況を超えるまでに進んでいるのだと感じます。

着任時に受けたインタビューで、私は、「お役に立てるのなら、お声がけいただければどこにも行きます」と申し上げ、そのことを実践してまいりました。日程の重複と調整に四苦八苦することしきりですが、それだけ、シドニーで様々な行事が行われていることを意味しており、勇気づけられます。文化・芸術活動、経済界の交流、姉妹都市関係を含む地方間の交流、スポーツ交流、日本食・日本酒の普及、学校交流、学術交流などなどです。様々な場面に顔を出し、会場で挨拶をさせていただいて皆さまの活動を後押しする、そしてシドニーにおける日本の存在感、プレゼンスの向上に少しでも貢献したい、そうした思いで一年間、走り続けてきました。

茶道では裏千家の千玄室大宗匠が6月にシドニーを訪問されました。生花、書道・墨絵、音楽の活動も目覚ましいものがあり、展示会やコンサートを訪問させていただきました。珍しいものとして、錦鯉の品評会というものにもご招待いただきました。

スポーツ交流も盛んです。WBCへのオーストラリア野球チームの参加、サッカーでは鹿島アントラーズ・ユースの当地訪問、ラグビーではNSWワラターズと日本との交流を経験しました。(サッカー日本女子代表・なでしこジャパンをオーストラリアにお迎えできなかったことは心残り

ですが。)

福岡県や長野県からは知事、市町村長や議会関係者によるハイレベルの訪問もありました。姉妹都市交流にちなんだ行事も盛んに行われています。一つ一つを挙げる紙幅がありませんが、NSW州内の地方都市や、大シドニー圏の市も出張・訪問し、地域レベルでの交流促進を側面支援しています。コミュニティレベルでの日本関連行事の多さと、どこに出かけても親日的な人々に囲まれることはありがたいことです。

また、「現代文化」というカテゴリーになじむか自信がありませんが、国際会議場で行われた「SMASH」のスケールと観客の大きさは嬉しい驚きでした。(声優の古谷徹さんにお会いできて感激しました。)

スキー・リゾートを宣伝するトラベル・フェアでの日本ブースに集まる人々の多さもまた、嬉しく感じました。うかがった話では、日本を訪問するオーストラリア人観光客は、コロナ前の水準に回復しているそうです。日本食・日本酒イベントはオーストラリア人にとっても人気で、いつも盛況です。

大学訪問、研究機関訪問も積極的に行いました。日豪間の「知的交流」、「産学交流」がさらに進むことを期待します。

和解関連の行事には最優先で参加してきています。日本の終戦記念日にあたる「VP Day」、シドニー湾攻撃慰霊式典、カウラ・ブレイクアウト慰霊式典に参加し献花を行い、戦没者を慰霊しました。先人たちの努力でなし得た日豪の和解と未来志向の精神を引き継いでいくことは重要な任務と感じています。

経済界の往来もコロナ前に戻ったように感じます。多くのビジネス関係者と意見を交わす機会に恵まれ、その都度、多くの「気付き」を教えて頂きました。総領事公邸でラウンドテーブルや夕食会を開催するなど、日豪経済関係者の中のネットワーキングを支援しています。今月は「西シドニー開発」に関連する日本企業ミッションの訪問があり、西シドニーを舞台とした具体的協力事業が実現することを願っています。

NSW州では3月に選挙があり、新しい労働党政権が発足しました。ミンズ首相や同首相率いる内閣の閣僚の方々、州議会のメンバーとは良好な関係を築けています。常に対話の窓を開いてくれていることはありがたいことです。在留日本人、日本企業の声をしっかり届けることをこれからも心掛けてまいります。

そしてもちろん、日豪関係が益々良好かつ緊密に発展していく中で、日本政府・議会関係者の往来もコロナ禍を経て復活しています。今年1月からだけでも、日本の多くの要人にシドニーを訪問頂きました。ありがたいことだと感じます。

特に防衛分野の交流の拡大は目覚ましいものがあります。8月には海上自衛隊の護衛艦での船上レセプションに参加しました。日米豪印の4カ国が訓練を行う機会を利用して、それぞれの船で歓迎レセプションを行い、大いに盛り上がりました。さすが日本の海上自衛隊、準備も式次第も料理も、すべて完璧で、私自身、嬉しく誇りに思いました。多くの防衛省・自衛隊関係者がオーストラリアを訪問されることは、安全保障面での日豪間の協力のレベルが大きく引き上げられていることを物語っています。

以上、一年が経過して、着任時の「第一印象」に続いての、これまでのシドニー勤務から得た「印象」を共有させていただきました。

そろそろ温かくなってきました。夏時間もせまってきました。公私にバランスのとれた生活を心がけ、妻とともにシドニーの夏を楽しみたいと思います。

総領事としての2年目も、引き続き、「お役にたてるのならどこにでも行きます」の精神で、日本人コミュニティの皆さまと協力・連携しながら、シドニーでの日本のプレゼンス、存在感を高める努力を続けてまいりたいと思います。

(以上)